

平成26年度第1回学生・教員懇談会報告書

1. 期日：平成26年12月2日（火） 12：00～13：00

2. 場所：大会議室

3. 出席者：

教職員 櫻田学部長、荒牧教務部長、湯川実務実習総括部長、
大光実務実習委員、上野事務長、事務職員 宮本 計6名

学生 5年生9名

4. 司会進行：櫻田学部長

1 全 般

司会の櫻田先生より、出席者に向けて懇談会の趣旨と今回のテーマ「実務実習を終えて」について説明された。テーマに沿い実務実習を終えた5年生9名から体験実習の感想や忌憚のない意見を受けることで、今後の実習教育の改善の資を得るとともに、学生・教職員間の意志の疎通を図りたいと話された。学生の自己紹介後、教員との意見交換が行われた。

2 概要 学生から呈示された意見や要望及び大学からの一部応答

～について	学生 発言者	学生の感想・意見・要望	進行及び教員応答	備考
調剤薬局 実習体験に ついて	I 君	診療科が多く、患者も多い ため、指導薬剤師は多忙の 様子ではあったが、製剤や 透析の原理について教えて いただいた。	まず調剤薬局体験の感想 やこれからの実習教育に 向けた要望	

	H 君	実習先の薬局は勿論のこと、他の薬局でも体験ができ、数多くの薬が学べた。		
	G 君	チェーン店でも実習ができ、調剤指導から服薬指導まで体験できた。ただ、患者が多いときには指導薬剤師も忙しく、何もしない空き時間があつた。		
	G 君	特に無かつた。薬の雑誌を読んだりしていた。空き時間を有効活用できるようになればいい。	空き時間に、課題などの提示は無かつたのですか？	
	F 君	実習先では、希望することはほとんど体験させてくれた。チェーン店が集まる勉強会にも参加でき有意義だった。大学病院の門前薬局だったため、患者も多く忙しかつた。		
	E 君	皮膚科での服薬指導を体験した。期間中、他の実習生と比べ知識の差を感じる瞬間もあつた。実習で学ぶというより仕事で多忙な状況だったが、暇になると放置された。	普段から空いた時間を自ら学習に充てる習慣を身に付けて下さい。 (G 君と E 君へ) 空き時間をどのように有効活用	

	E 君	皮膚科の患者のみの対応で、限られた実習だった。多種に渡る薬の処方を体験できる実習先が希望であればいい。	していくか。これは大事なことです。	
	D 君	3 2 店舗のチェーン店があり、コンプライアンスの重要性や今後在宅医療に力を注いでいくなどの話が聞けた。お薬体験ミュージアムが開かれ、各職場ブースで参加した高校生に実習生が説明する時間もあり、有意義であった。	地域的には交流会は盛んだと思われる。意見交換等でその点は少なからず補えるのではないですか。大学としてもできる限り考慮していきたい。	
	C さん	他の薬局の実習生との交流や工場見学で在学中に学んだことが確認でき良かった。	他の実習生は、どちらの大学生でしたか。	
	B さん	九州大学、福岡大学、崇城大学などです。 実習先は受入れが初めてだった様子。服薬指導で、患者の薬歴を確認して、自ら考えての指導に対し、自分の薬の知識が少ないため大変だった。 体験の場にはコミュニ		

病院 実習体験に ついて	Aさん	ケーション能力が重要だと感じた。学内の実習でも実践的なコミュニケーションを訓練する機会を増やして欲しい。 H I V患者が多く、患者を思いやり、気を遣いながらの対応を学んだ。また、途中参加の実習生に教えることが大変だった。	その実習先（薬局）がそういう実習生を受け入れる役割を担っていると思われる。 次に病院実習体験の感想については、如何でしたか。	
	Aさん	調剤指導からがん患者対応と、ステップアップできて良かった。覚える薬の種類は少なかった。すべての実習生が病棟で患者対応ができたのではなく、病棟に上がった学生とそうでない学生がいて対応に差があった。		
	Bさん	実習先では1人のため、特に意見交換はできなかった。調剤室、検査部やさらに注射室など他の部との関わりが学べて良かった。抗がん剤の調整も勉強になった。		

	Cさん	実習のスケジュールも講義・病棟としっかりと決められていた。また深夜の業務も学べ、薬剤師の一日の業務の流れが分かった。心残りは新生児の病棟実習に回れなかったことです。		
	D君	32名の薬剤師が勤務していた。パソコン作業時間が長く、データ入力などは必要ではないと感じた。もう少し病棟に上がって患者を診て実習したかった。		
	E君	実習指導の薬剤師から今後の進路について教えて頂いた。特に福祉について問題を出され、とても勉強になった。		
	F君	各実習期間の割合を変えてもらうことはできないか。自分としては調剤薬局より病院薬局を長く体験したかった。		
	G君	病床250、薬剤師7名の実習先でした。CTや抗がん剤の調整、新薬の勉強会と多くの体験ができた。ただ薬剤師とのコミュニケーションがなかなか上手くいかなかった。	それぞれの立場があり、大変難しい。現在の結論は五分五分の期間である。厚労省、文科省に関わる課題である。	

	H 君	必ず薬剤師がついて指導を受けながら病棟を回れた。		
	I 君	大学病院で薬の数も多く、注射剤、抗がん剤、D I 室などを回れて良かった。国試向けの講義も受けた。実習生につく病棟業務担当者の指導方法が異なり、戸惑った。自分の担当者は、質問ばかりの方で、丁寧に教えて欲しかった。 6 名挙手。 2 名の挙手。	皆さんは 1 1 月の模擬試験を受験しましたか。 今回の実務実習を終えて次回の模擬試験の結果、期待しています。 （実習先で暇を持て余す状況について）そのような実習先は薬剤師会に対し、大学としても考慮して頂くように伝えていく必要があると感じた。 さらに指導薬剤師の先生は国家試験問題を踏まえた指導や課題だったと感じましたか。	

3 結言

最後に、学部長から「調剤薬局及び病院薬局での体験実習は、総体的に皆さんにとって有意義な時間であり今後の国家試験に向けても大変貴重な体験だったと考えます。皆さんの感想や意見を今後の実習教育の改善に繋げていきたい。皆さんにはさらなる学力の向上とコミュニケーション能力を身に付けることなど、全てにおいて人間教育に努めて欲しい」とのお願いがあった。

以上